

認知症予防の力ギは 神経伝達物質「セロトニン」

高齢者の四人に一人は認知症

認知症は何らかの原因により脳が病的に変化し、記憶や認知機能、判断力などが低下していく病気です。その原因により一五種類くらいに分類されていますが、多くは「アルツハイマー型認知症」と「脳血管性認知症」です。どの種類の認知症でも必ず見られる症状（中核症状）が三種類あります。

・記憶障害
新しい事柄が覚えられない状態と、以前に記憶した経験や体験が思い出せない状態



・判断力の低下
日常生活や職業に関連した問題を手順良く計画的に処理できない状態

・見当障害
人や周囲の状況、時間、場所など自分自身が置かれている状況などが正しく認識できない状態

この中核症状に徘徊、幻覚、攻撃的、異食、不安、恐怖など周辺症状（必ず見られるとは限らない症状）がプラスされます。

六五歳以上の高齢者で認知症を発症

している人は四六二万人、認知症の前段階である軽度認知障害を発症している人も四〇〇万人に上ることが厚生労働省の調査で明らかになっています。これは高齢者の四人に一人が認知症とその予備軍であるということなのです。本人だけでなくご家族など介護する方のことも考えれば治療はもちろんのこと、予防についても早期に考えなくてはならない問題だと思われまます。

神経伝達物質で認知症を予防

アルツハイマー型認知症の脳では

- 1、大脳皮質に著しい萎縮
- 2、老人斑、神経細胞の脱落
- 3、神経伝達物質に異常が生じているなどの変化が見られます。特に神経伝達物質の減少が認知症の発症に深く関与していると考えられます。

アルツハイマー型認知症において関与する神経伝達物質にはドーパミンやノルアドレナリン、セロトニンなどがあげられます。そしてこれらの神経伝達物質は人間の感情やそのバランスを調整する機能を持っています。その中でもセロトニンを減少から増加へと転じることができれば認知症の予防へとつながると考えられます。アルツハイマー型認知症の場合には四〇から五〇%の人が抑うつ気分、そのうち一〇から二〇%はうつ症状を合併しているといわれています。つまり認知症と

うつは紙一重であり、これを仮性認知症（うつ症）というそうです。一般にうつ症になりやすい方は真面目で責任感が強いためにこれが精神的なストレスとなるといわれています。日頃からセロトニンを増加させることが有効です。

そこでおすすめしているのがセロトニンを増加させる働きを持つロディオラ・ロゼアを主成分とした「ケアバランス」という健康補助食品です。「ケアバランス」は脳に直接働きかけて神経伝達物質の働きを促す成分が豊富に入っていますので、こころと体のバランスを調整して様々な精神疾患を防止し元気に活動できる脳を若々しく保つてくれます。

認知症の予防にいちど「ケアバランス」をお試しください。

漢方療法推進会

「ケアバランス」（健康補助食品）
六〇袋入り（一ヶ月分）
七、八一〇円＋税



「ケアバランス」についての相談は店頭だけでなく、お電話でも受け付けております。

「こころがワクワクするとからだも元気に」

やる気がおこらない、イライラしやすい、心配事ばかりで不安、うつ、眠れない方
ケアバランスでこころを安定させ健康な毎日を送りましょう

ゆがの薬局

賀茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150
当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>

1ヶ月分 8200円（税込）